

## 卷頭言

## 次期学習指導要領について

県教育庁教育振興部指導課 指導主事 大木 喜信

今年の3月31日に小学校・中学校の新しい学習指導要領が告示された。高等学校については、今年度内に告示され、平成34年度から年次進行により実施となる見込みである。昨年12月21日の中央教育審議会の答申によると、「社会に開かれた教育課程」の実現や、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することなどが重要な柱とされている。その中で、学校の教育活動を進めるに当たり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要性や、学校全体として、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの確立の重要性が示されている。

既に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいる学校もあるが、取組の状況は、学校により大きく異なる。多くの学校で、今までの授業スタイルを変えることに不安を持つ先生が少なくないと聞く。グループワークなどの活動を取り入れていても、「活動あって学び無し」という授業であってはならない。そこで、今までの授業の良い部分は継承しつつ、その上で、授業目標の提示、問いかけの工夫、ペアワーク・グループワークの活用、リフレクション（振り返り）などを取り入れながら、授業改善を行って欲しい。ただし、授業者自身が考えている「授業で良い部分」が、生徒から見て良い部分なのかということは、常に考えていかなければいけない。そのためには、生徒からの授業アンケートや、授業公開・研究授業などを活用して、授業評価を行うことは大切なことであろう。そして、それぞれの先生方が行った授業改善については、教科や校内で共有し、学校全体で授業改善に取り組んでいただきたい。

また、次期学習指導要領では、観点別の評価が今までの4観点から、3観点に変わる見込みである。3つの観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」のことであり、学力の3要素を適切に測ることができるようになっている。今後の入試改革でも、学力の3要素を適切に評価することが求められており、このことから、授業改善は待たなしの状況といえよう。ここで、本題とは少しそれるが、高大接続改革について説明する。平成32年度から（現中学3年生から）、大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テスト（仮称）を実施し、その中で、国語と数学で記述式問題を導入することが決定した。今年5月に出た記述式問題のモデル問題例では、現行のセンター試験にある「問題解決の構想から結論に至るプロセスが文脈の中にすべて提示されている」という形式ではなく、自分で解答を作成していく力、記述する力を問う問題となっており、問題例には、現実的な課題に対して、数学を活用して課題を解決することで、「数学のよさ」を認識させることを狙いとした出題もあった。是非、同テストについて、校内で議論を深めていただきたい。

終わりに、数学部会の事務局及び会員の皆様による、数学教育の改善・充実に向けた熱意ある取組に感謝するとともに、数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」が一層充実・発展し、今後とも多くの先生方の研修の一助となり、日々の実践に活用されることを祈念しております。